

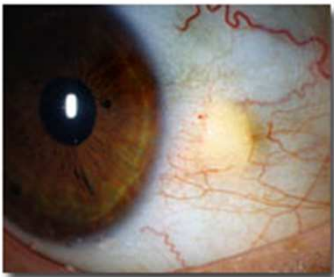
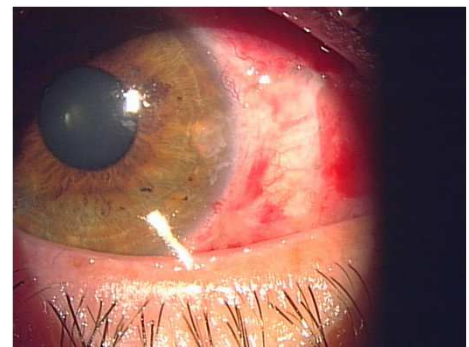
眼科だより

琵琶湖大橋病院 平成27年 春号

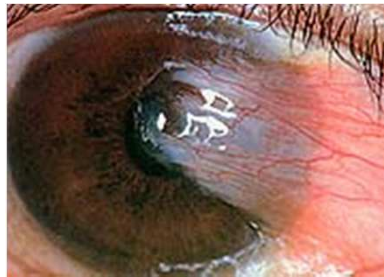
みなさん、こんにちは。眼科センター長の樋野です
今回は翼状片、瞼裂斑について書いてみたいと思います。

翼状片、瞼裂斑とは。

翼状片とは白目（結膜）の下にあるテノン組織が紫外線などの影響で異常増殖をおこし、黒目（角膜）にも侵入してしまい、強い充血や乱視やひどい場合視力低下を起こす病気です。瞼裂斑は紫外線の影響で白目の横の部分が盛り上がり、黄色くなったり充血しやすくなってしまうものです。



瞼裂斑



翼状片

翼状片は漁師さんや農業をしている方に多い印象がやはりありますが、瞼裂斑に関しては紫外線の影響がどこまであるのかははっきりしません。どちらかという体质の部分が多いと思います。翼状片、瞼裂斑は線維組織の増殖なので、基本点眼などの投薬で治ることはなく、大きくなれば切除（手術）が基本です。ただ大きくなれば切ればいいと単純に言い切れないのは、翼状片を単純にとれば、手術後の出血、炎症でテノンの増殖が一気におこり、ものの1、2ヶ月で手術前より大きくなってしまい、ひどい場合にはまぶたなどにもくっつき、眼球が動きにくくなりものがだぶってしまう状況になることがあるからです。術後再発しやすいのは、若い人、充血の強い人とされています。

手術をしても再発しにくいようにするのが翼状片手術の醍醐味です。通常よくするのが、翼状片をはずしてから下方から健全な結膜組織をもってきてテノン組織の増殖をブロックします。これで大概落ち着くのですが、それでも再発する場合、マイトマイシンという細胞増殖を押さえる薬を塗布したり、羊膜という細胞増殖を抑制する組織を縫い付けることによりテノン組織の細胞増殖を防ぎます。

翼状片の手術時間としては20～30分程度で、日帰り手術でできます。

瞼裂斑でも大きくて、瞬きの際に違和感が強い、充血がどうしても強いなどの場合は手術をする場合もありますが、基本は様子みていくことになります。